

研究の概要

I. 校内研究計画

1. 研究主題

主体的に学び、深め合い、学ぶ楽しさを実感する子の育成

～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた国語科の授業づくり～

2. 主題設定の理由

本校では、昨年度、国語科において、主体的に学び、対話を通して学びを深めることのできる児童の育成を目指してきた。つけたい力を明確にし、魅力的な言語活動を設定することで、見通しをもって学習のゴールに向けて意欲的に取り組むことができるようになってきた。また、目的や必要感をもって交流に臨み、友達の考えと比べて自分の考えをよりよくしようとする児童の割合も増えてきた。

しかし、昨年度の学力調査の結果から、自分の考えを条件にあわせてまとめる力や、文章のよさを見つける力に課題が見られた。また、質問紙の結果からは、「課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組んできた」や、「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」という、主体性に関わる項目の肯定的な回答がどちらも7割にも達していなかった。「国語の勉強が好きだ」「国語の勉強がよくわかる」という項目も、肯定的な回答が少なかった。普段の授業の様子からも、相手意識をもって自分の考えを伝えたり、考えをよりよくしたりしようとする思いもまだ弱い傾向にある。そのため、与えられた学習課題に対して真面目に取り組むことはできても、自分から積極的に学びを求めていくという姿や、自分の考えを伝え、深め合う姿には未だ課題が残った。

そこで、今年度は、これまで国語科の研究で取り組んできたことも継続しつつ、個別最適な学びと協働的な学びのための一体的な充実を図る授業設計に重点をおくことで、児童が自ら学びを判断・選択しながら学びを深め、「もっとこうしたい!」「次はこうしたい!」と学ぶ楽しさを実感できるよう、子ども主体の授業を目指していく。

その方策として、教材研究において、つけたい力を明確にした単元構想を行うこと、指導事項をもとに、目的や必要感を感じさせる言語活動を設定する。また、その力がつくような言語活動モデルを作成し、B評価基準を教師自身が明確にして授業に臨むようにする。児童とつけたい力を共有し、見通しをもってゴールまで学習を進めていけるようにする。

次に、1単位時間の中で児童が学びを判断・選択して、自己調整しながらできるように委ねる場面を設定していく。段階を踏んで委ねていく内容・場면을広げていくことで、児童が自ら学習の状況を把握し、主体的に学習を調整したり、協働して学びを深めたりすることができるようにしていきたい。また、児童が協働して学びを深めたり、教師が児童を適切に見取り働きかけたりしていくために、効果的なICTの活用の仕方を吟味していく。

さらに、学ぶ楽しさを実感できるようにするために、終末のふり返りを大切にしていきたい。

3. めざす児童の学びの姿

主体的に問いをもち 自分の考えをもつ姿

- ★具体的な姿
- ・単元のはじめに「やりたい!」と思えている。
- ・本時の学びに興味や関心をもっている。
- ・つけたい力をつけるために、ゴールに向かって見通しを持っている。
- ・課題に対する自分の思いや考えをもっている。

自分の考えを深める姿

- ★具体的な姿
- ・自分の考えをよりよくするために粘り強く取り組んだり、自分で判断・選択し、調整しながら学びを深めたりしている。
- ・友達の意見と自分の考えを比べながら聞き、自分にはない新たな考えに気づいたり、自分の考えとの共通点を見つけて、自分の考えを再構築したりしている。

学ぶ楽しさを実感している姿

- ★具体的な姿
- ・「つけたい力」がついたことを実感することができる。
- ・ねらいに対するふり返りを書いている。
- ・自己の変容を自覚したり、新たな課題をもって次の学習に生かそうとしたりしている。

4. 主な研究内容（ねらい達成のために以下の研究を進める）

① つけたい力を明確にした単元構想

- 子どもに働かせたい見方・考え方の明確化
- 子どもが見方・考え方を働かせるための手立て
 - 資料や問題の吟味
 - 気づきを促す問い
 - 学びを深める問い
 - 協働的な場面での視点
 - 子どもに委ねる場面の吟味
- 必要感のある授業設定を行うための深い教材研究
 - 指導事項の確認をし、つけたい力を明確につけたい力に合う適切な言語活動の設定
 - 言語活動モデル（成果物）の作成
 - つけたい力がついた子どもの姿の具体化（B 評価基準の設定）
- 単元のはじめ、授業のはじめに、つけたい力の共有（教師と児童）
- 課題解決に向けた学びの過程の共有（教師と児童）

「言葉による見方・考え方」
 児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること

② 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

〈いしかわ学びの指針12か条+ 2条〉

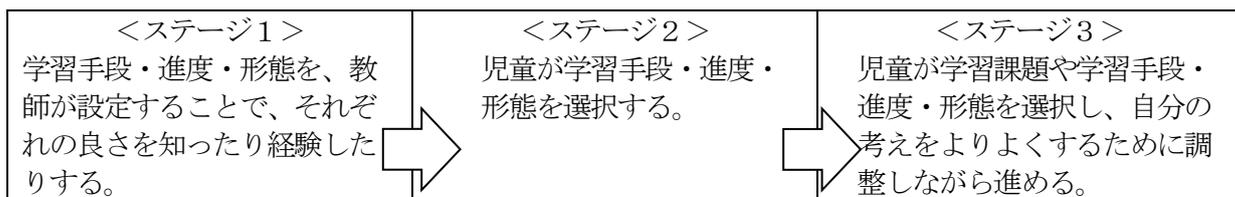
- 子どもが学びを判断・選択して、自己調整しながら進める場面の設定

個別最適な学び：
 子どもが学習内容や学習形態を選択し、自己調整しながら学習を進める



協働的な学び：
 多様な他者と協働し、よりよい学びを生み出す

- 段階を踏んだ選択学習



- 交流の目的や意図を明確にし、必然性のある交流場面の設定
- 学習活動に応じた効果的な ICT の活用
 - 学習材の共有や学習内容の蓄積
 - 自分の考えを表現する方法
 - 自分の考えを広げ、深めるための共有
- 見取りからの適切な働きかけ（見守る・声かけ・支援）。

③ 学びの自覚化の充実

- つけたい力が実感できるふりかえりの在り方
 - 授業終末のふりかえりを大切に、今日できたこと、次の時間のめあて等を子ども自身が言葉で表し学び進めていけるようにする。

ふりかえりの視点

- ・「つきたい力」がついたか
- ・本時の課題ができたか（何をどのように学んだか）
- ・学習前と学習後で自分の変化したこと
- ・次の時間（単元など）にやってみたいこと
- ・他教科や生活場面で学んだことを生かせそうなこと

【学習を支える基盤づくりとして取り組むこと】

① 学習環境・言語環境の充実

- ・児童が主体的に学び合うための話す・聞く力の育成 〈いしかわ学びの指針12か条+ 4条〉
- ・児童の思考がつながる手立てとしての既習揭示

② 基礎的・基本的な知識及び技能の定着

- ・学習習慣・学習規律の徹底
- ・学期末・学年末漢字計算テスト、パワーアップタイムの計画的実施
- ・活用問題の実施 〈いしかわ学びの指針12か条+ 8条〉

③ 良好な人間関係の学級集団作り

- ・生徒指導の4つの視点に立った授業づくり（自己決定・自己存在感・共感的な人間関係・安心な居場所づくり）

自己決定の場の提供：
子どもたちが自ら考え、選択し、決定する力を育てる。

自己存在感の感受の促進：
子どもたちが自分を肯定的に捉えたり、認められたと感じたりできるようにする。

共感的な人間関係の育成：
子どもたちが互いに認め合い、励まし合い、支え合える学習集団づくりを促進する。

安全・安心な風土の醸成：
子どもたちの個性が尊重され、安全かつ安心して学習できるように配慮する。

- ・心と体の基盤づくり 〈いしかわ学びの指針12か条+ 8条〉

④ 家庭学習の習慣化

- ・家庭学習の手引きを作成及び活用し、1人ひとりに応じた家庭学習の量と質の向上
- ・家庭学習強化週間（学期に1回）の設定 〈いしかわ学びの指針12か条+ 8・9・12条〉
- ・自主学習の取組

⑤ 学び合いの充実

- ・主体的な問題解決につながる効果的なICTの活用 〈いしかわ学びの指針12か条+ 7条〉
- ・めざす授業像の作成・共有を通して、自分たちで学びを創る意識の向上 〈いしかわ学びの指針12か条+ 4・6条〉

1 学期	話し方・聞き方を中心とした学習規律の内容にする
2 ・ 3 学期	自分たちでどのような授業を創っていきたいか考える

⑥ 言語能力の向上

- ・「ことばのたからばこファイル」の活用
- ・条件作文の取組 〈いしかわ学びの指針12か条+ 3・5条〉
- ・ノート指導

5. 研究構想図

学校目標『進んで学び高め合い、心豊かに生き抜く川北っ子の育成』

考える子

わざをみがく子

きれいな心の子

たくましい子

研究主題

主体的に学び、深め合い、学ぶ楽しさを実感する子の育成

～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた国語科の授業づくり～

めざす児童の学びの姿

- ・主体的に問いをもち、自分の考えをもつ姿
- ・自分の考えを深める姿
- ・学ぶ楽しさを実感している姿

研究内容

①つけたい力を明確にした単元構想

- ・見方・考え方の明確化
- ・見方・考え方を働かせるための手立て
- ・深い教材研究
- ・つけたい力の共有
- ・学びの過程の共有

②個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

- ・学びを判断・選択して自己調整しながら進める場面の設定
- ・段階を踏んだ選択学習
- ・必然性のある交流場面の設定
- ・効果的な ICT の活用
- ・見取りからの適切な働きかけ

③学びの自覚化の充実

- ・つけたい力が実感できるふりかえりの在り方

こんなこと
できた!

次はこうしたい!

学び合いの充実

- 効果的な ICT の活用
- めざす授業像の作成と共有 (研究推進委員会)

良好な人間関係の学習集団作り

- 生徒指導の4つの視点に立った授業づくり (授業者)
(自己決定・自己存在感・共感的な人間関係・安全安心な風土の醸成)
- 心と体の基盤づくり (生徒指導部、保健安全・体育部との連携)

学習環境・言語環境の充実

- 児童が主体的に学び合うための話す・聞く力の育成
- 児童の思考につながる手立てとしての既習揭示

言語能力の向上

- ことばの宝箱ファイルの活用
- 条件作文の取組 (研究推進委員会) ○ノート指導

基礎的基本的な知識・技能の定着

- 学習習慣・学習規律の徹底 (学習指導部)
- 漢字計算テスト (学習指導部)
- パワーアップタイム・活用問題 (学習指導部、教務部)

家庭学習の習慣化

- 家庭学習の手引きを作成・活用 (学習指導部)
- 家庭学習強化週間の設定 (学習指導部)
- 自主学習の取組

学習を支える基盤づくり

6. 研究の進め方

①国語科を中心とする授業研究

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた授業実践を重視し、授業の中で児童が自分の考えをもち学習内容や学習形態を選択し、自己調整しながら学習を進めたり、多様な他者と協働したりして、よりよい学びを生み出す姿が見えるような授業づくりに取り組む。また、互いの授業を参観し合い、授業研究会での意見交換を通し、研究主題に迫る方策を探る。

②校内研究について

- ・低学年部会、中学年部会、高学年部会の3つの部会を組織し、研究を深める。
- ・計画訪問、要請訪問にて研究授業を行う。

全体での研究授業・・・計画訪問、要請訪問の2回の研究授業
全体での研究授業以外・・・部会での研究授業

- ・全員が全体研究授業、部会研究授業のいずれかを行い、日々の授業にいかしていく。
- ・研究授業については、各部会の研究推進委員を中心にして、部会で事前に指導案の共同立案及び検討会を持ち、全員で意見を出し合っって授業を作り上げていく。
- ・全体研究授業については、指導案検討会を全体で持ち、授業者の意図をふまえてから授業を参観する。
- ・部会研究授業の指導案検討、および授業整理会は部会で行い、積極的な意見交流をする。
- ・授業記録、記録写真などの仕事は、各部会で受け持つ。
- ・教材研究や授業を行う際は、部会内外で相談し合うとともに、積極的に外部講師・指導主事を招聘し指導助言をあおぐ。
- ・授業交流週間を設け、互いに授業を見合い良さを見つけ、自分の授業改善に取り入れ、教師同士が学び合える関係をつくっていく。

③検証方法

【主体性・学ぶ楽しさに関して】

- ・学校評価アンケート、児童アンケートによる意識調査
- ・職員アンケートによる意識調査

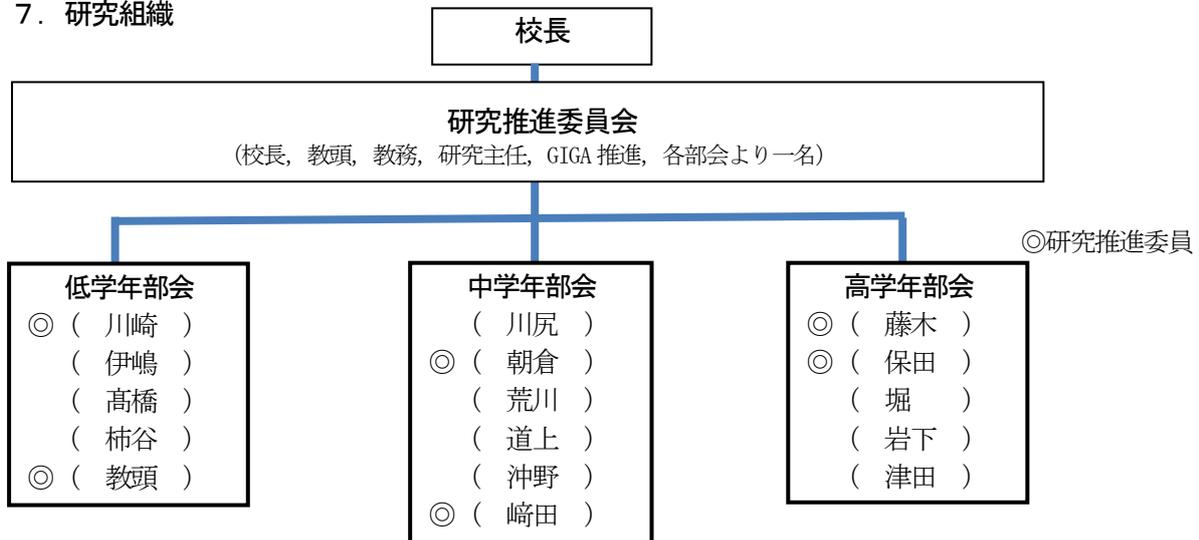
【つけたい力がついたかどうか】

- ・単元末テスト80点以上が8割以上

④学校研究だより

- ・研究授業後、授業整理会を受けて、授業者は研究だよりを作成し、考察を含めた授業報告をする。自身の振り返りを行うことで、授業改善につなげる。さらに、研究主任が全教員へ還元することで、効果的な指導等を共有する。

7. 研究組織



8. 研究計画

期日		会名	内容	学年授業者
4月	4 10 25	研究推進委員会 校内研究会 要請訪問 (研究推進委員会)	今年度の研究について 今年度の研究について・研究内容の確認 提案授業についての確認・指導案検討 (西河指導主事)	
5月	9 14 17 20 28	校内研究会 校内研究会 研究推進委員会 校内研究会 校内研究会	提案授業「言葉の意味が分かること」(6限) 指導案様式、授業整理会 要請訪問指導案検討会 要請訪問について 模擬授業 要請訪問「時計の時間と心の時間」(5限)	5年 藤木 6年1組 保田
6月	12	校内研究会(部会)	重点単元指導事項について各部会で協議	
7月	3 4 22 26	研究推進委員会 校内研究会(部会) 校内研究会(部会) 研究推進委員会	1学期のふり返りの仕方について・アンケート項目検討等 〔児童・職員アンケート①〕 部会研究授業での学びの共有「まいごのかぎ」 (指導案検討、授業実施、整理会) 1学期の取り組みについて 成果と課題 1学期の成果と課題について・計画訪問に向けて	3年 川尻
8月	6 20 27 29	校内研究会 研究推進委員会 校内研究会(部会) 校内研究会	計画訪問に向けて(国語科におけるICT活用) 2学期の取り組みについて 2学期の取り組みについての共有・計画訪問 指導案検討 GIGA指導主事マルチサポート 「国語科での個別最適な学びと協働的な学びの 視点でのICT活用」	
9月	12 19 25 26 27 30	研究推進委員会 校内研究会 校内研究会 校内研究会(部会) 校内研究会(部会) 校内研究会(部会)	計画訪問に向けて 金沢大学教員派遣「学習評価(指導と評価の一体化)について」 研究授業模擬授業 部会研究授業での学びの共有「どうぶつ園のじゅうい」 「ごんぎつね」 低・中・高部会 「ごんぎつね」	2年 伊嶋 4年1組 朝倉 4年2組 荒川
10月	17 23 28	研究推進委員会 校内研究会 校内研究会(部会)	部会授業を受けて 計画訪問「ぼくのブックウーマン」(5限) 低・中・高部会	6年2組 堀
11月	11 27 28	校内研究会(部会) 研究推進委員会 校内研究会(部会)	部会研究授業での学びの共有「じどう車くらべ」 (指導案検討、授業実施、整理会) 部会授業を受けて 低・中・高部会	1年 川崎
12月	11 23 24	研究推進委員会 校内研究会(部会) 研究推進委員会	〔児童・職員アンケート②〕 今年度のまとめに向けて 2学期の取り組みについて 成果と課題 今年度の成果と課題・検証	
1月	8	校内研究会	3学期の取り組みについて・成果と課題の共有 低・中・高部会	
2月	12 19	研究推進委員会 校内研究会	研究のまとめ・次年度に向けて 今年度の研究のまとめ・次年度に向けて	
3月		校内研究会	来年度の研究について	